ようこそ 皇居へ

無料

	日	月	火	水	木	金	土
皇居一般参観	×	×	○	○	○	○	○
皇居東御苑	○	×	○	○	○	×	○

※上記以外にも休園日、参観休止日がございます。詳細は HP でご確認ください。https://www.kunaicho.go.jp

参観音声ガイド
宮内庁公式アプリ
iOS/
Android 用

皇居一般参観（１時間程度の皇居無料ガイドツアー：宮殿は外観をご覧いただけます）

当日受付（要整理券）　事前予約はこちら https://sankan.kunaicho.go.jp/register/month/1001?locale=ja

	午前の回	午後の回
当日受付整理券配布	9:00	12:30
受付開始	9:30	13:00
参観開始－終了予定	10:00－11:15	13:30－14:45

※参観開始時刻 10 分前までに必ずお越しください。

- 人数制限があります。
- ご本人を確認できるもの（パスポート・マイナンバーカード・運転免許証・在留カード・健康保険証など）をご持参ください。コピーは不可。

入出門
★桔梗門（ききょうもん）
※整理券配布場所

アクセス：
- JR 東京駅丸の内中央口から徒歩約 15 分
- 地下鉄千代田線二重橋前駅（出口 6）から 徒歩約 10 分
- 地下鉄三田線大手町駅（出口 D2）から 徒歩約 10 分

皇居東御苑（ひがしぎょえん）（公開エリアを自由に散策できます）

事前予約不要　宮殿はエリア外のためご覧いただけません

- 天皇誕生日以外の「国民の祝日等の休日」は公開。
- 月曜日が休日で公開する場合、翌火曜日は休園。
- 年末年始（12/28～1/3）は休園。
- 9:00 から 16:00～18:00 ※閉園時間は季節によって異なります。入園は閉園時間の 30 分前まで。
  詳細は HP でご確認下さい。https://www.kunaicho.go.jp/event/higashigyoen/higashigyoen.html

＊宮殿（外観のみ）は皇居一般参観にてご覧いただけます。

皇居東御苑から皇居一般参観入門口の桔梗門へは、園内を通り抜けできませんので、一度退園してから桔梗門へおまわりください。

入出門
- 大手門
- 北桔橋門（きたはねばしもん）
- 平川門

ご注意いただきたいこと ※必ず事前にお読みください

ドローン禁止　火気厳禁　花壇に入らない　のぼらない



- 手荷物検査を実施します。
  アルコール類、ドローン、刃物類、危険物等は持ち込めません。
- 皇居内のコインロッカーは数に限りがありますので、スーツケースなどの大きな荷物は、駅付近のコインロッカーに預けるなど、混雑緩和にご協力をお願いいたします。
- 土産物、飲料を販売しています。皇居東御苑では軽食も販売しています。
- 駐輪場、駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。
- 木や石垣に登らないでください。危険な行為、迷惑になる行為は禁止しています。
- 動物（身体障害者補助犬を除く）は入園できません。

皇居 全体図



皇居とは

皇居は、明治天皇以降、今の天皇陛下までの歴代の天皇のお住まいです。現在の天皇陛下は、令和元年（2019）５月１日に即位し、第126代天皇になりました。

現在の皇居の主な地形は、この場所が、天皇のお住まいとなる前、江戸城というお城があった時代に、自然の地形に人の手が加えられて形成されたものです。特に 17 世紀前半、江戸時代の初めの頃の工事は大規模なもので、代々の徳川将軍が居住し、政務をとる巨大な城郭として整備され、今もその名残が、皇居の各所に見られます。

❶ 宮殿



大きな屋根と柱・梁で構成される日本古来の建築美をいかした鉄骨鉄筋造りの地上２階、地下１階の建物で、７つの棟から構成されています。昭和43年（1968）10月に完成し、翌年４月から使用を開始しています。天皇陛下が公的な事務をお執りになる所で、新年祝賀の儀、親任式、信任状捧呈式、勲章親授式、国賓の宮中晩餐、ご会見を始め様々な行事が行われます。

❷ 宮殿東庭（とうてい）

東庭は、新年・天皇誕生日の一般参賀の場として使用されます。その地下は、約120台を収容する駐車場となっています。

❸ 伏見櫓（ふしみやぐら）



皇居に残る江戸時代の櫓の中でも、最も美しいと言われる櫓です。17世紀に、京都にあった伏見城の櫓を解体して移設したとの言い伝えもあります。

❹ 二重橋（正門鉄橋（せいもんてつばし）と正門石橋（せいもんいしばし））



奥にある正門鉄橋が木製であった頃、下の濠の水面までは高さが 13 メートルあったため、水面からいきなり橋を架けることができず、まず低い橋を架けて、その橋の上にさらに橋桁を組んで橋をかけており、二重に架けられた橋という意味で今でも二重橋と呼ばれています。

１月２日の新年一般参賀や２月 23 日の天皇誕生日一般参賀のため皇居を訪れる人々や、宮殿を訪れる国賓などの外国賓客は、まず、石橋を渡って正門渡橋を通り、次に、鉄橋を渡って、東庭に入ります。

❺ 宮内庁庁舎

この建物は、昭和 10 年（1935）に建築され、明治宮殿が昭和 20 年（1945）に空襲で消失後、庁舎３階は、昭和 43 年（1968）の新宮殿落成までの間、仮宮殿として使用されていました。

❻ 生物学研究所



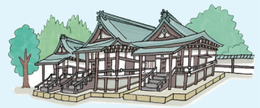
天皇陛下は、我が国の農耕文化の中心である稲作について、昭和天皇のお始めになった行事を、上皇陛下からお引継ぎになりました。生物学研究所脇の水田で、春には種籾をお手まきになり、初夏にお田植えをなさり、秋にはお稲刈りをなさいます。

❼ 大道庭園（おおみち）



大道庭園では、およそ 90 樹種、500 鉢ほどの盆栽を管理しています。そのうち年間延べ 300 鉢程度が使われています。大型の盆栽は、国賓を迎えるときや天皇誕生日など重要な行事の際に、宮殿の南溜（玄関ホール）・北車寄玄関などに飾られます。一般的な大きさの盆栽は、宮殿の室内、御所、宮家などに飾られます。

❽ 宮中三殿（きゅうちゅうさんでん）



天皇皇后両陛下は、宮中三殿（賢所、皇霊殿、神殿）における祭儀を大切にしてこられました。古くから伝えられる祭祀を忠実に受け継がれ、常に国民の幸せを祈っておられます。

❾ 御所（ごしょ）

天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下がご使用になっており、行事等も行われています。

❿ 信任状捧呈式馬車列（しんにんじょうほうていしきばしゃれつ）

皇居では、しばしば外国からの大使が日本に着任する際に、その国の元首から託された信任状を天皇陛下に捧呈する儀式、「信任状捧呈式」が行われています。この儀式では、大使一行の東京駅から皇居までの送迎に、皇室用の自動車または馬車を使用しています。運行予定は宮内庁 HP でお知らせしています。皇居外苑でご覧いただけます。

⓫ 吹上御苑（ふきあげぎょえん）

多様な自然が育まれるように管理しています。皇居内の生物調査（平成 12 年実施）で、動物は 3,638 種類、植物は 1,366 種類確認されました。

⓬ 紅葉山御養蚕所（もみじやまごようさんじょ）



皇后陛下は、ご養蚕を上皇后陛下からお引継ぎになりました。皇居内の紅葉山御養蚕所で、春から初夏にかけて、養蚕の各段階の作業を行われ、日本在来品種「小石丸」を始めとした家蚕を育てられています。

⓭ 皇居乾通り一般公開（いぬい）

毎年、春季の桜の時期と秋季の紅葉の時期に一般公開しています。

※ ⓮～⓱ は裏面へ

皇居東御苑 拡大図

皇居東御苑とは

皇居東御苑は、天皇皇后両陛下のお住まいである皇居の中のお庭で、かつての江戸城の中心部分を、昭和 36 年（1961）から昭和 43 年（1968）にかけて庭園として整備し、同年 10 月から一般公開しています。



皇居東御苑内の看板（日本語・英語）や、宮内庁参観音声ガイドアプリ（日本語・英語）をご参照ください。

14 富士見櫓（ふじみやぐら）



「櫓」は、城の隅など重要箇所に造られる防御施設の役割をもった建物です。かつて江戸城には多くの櫓がありましたが、現存する櫓は、富士見櫓、伏見櫓、巽櫓の３つとなりました。富士見櫓は、明暦の大火（1657 年）で焼失しましたが、その後間もなく再建され、天守の代用としても使われていました。将軍が富士山や両国の花火、品川の海を眺めたといわれています。

15 桔梗門（ききょうもん）

江戸時代に造られたものです。現在は、一般参観の人々の入退出など通用門として使われています。この地に最初に城を築いた太田道灌は、桔梗を家紋にしていたとも言われ、道灌と皇居とのゆかりを感じさせる門名です。

16 巽櫓（たつみやぐら）



江戸城で現存する唯一の隅櫓（すみやぐら）です。隅櫓とは、城の隅角に造られた監視と防御を目的とするものです。桜田巽二重櫓とも、単に巽櫓とも呼ばれています。

17 窓明館・売店（そうめいかん）

皇居一般参観参加者へ説明を行う場所です。売店があり、お土産物等の販売をしています。飲料の自動販売機もあります。お食事は販売しておりません。ゴミ箱は設置しておりませんので、各自お持ち帰りください。

18 大手休憩所

皇居東御苑の休憩スペースとして、カフェや売店のほか、皇室や皇居の歴史・文化をはじめ、日本各地の伝統文化や自然について紹介する展示があります。

19 石室（いしむろ）



江戸城本丸御殿の大奥の脇に当たります。石室の用途は諸説ありますが、火事など非常の際に、大奥用の調度などを避難させた場所と考えられています。

21 富士見多聞（ふじみたもん）



「多聞」は、長屋造りの防御施設です。江戸城には多くの多聞がありましたが、現存するのは、この富士見多聞と、伏見櫓の左右にある多聞だけになりました。（中に入って見ることができます）

21 本丸バラ園



上皇陛下のお考えから平成８年（1996）に整備されました。大半のバラは昭和天皇が献上をお受けになってお育てになっていたものを、吹上御苑から移植したものです。見頃は４～６月です。

22 松の大廊下跡（まつ おおろうかあと）



江戸城本丸には広大な御殿があり、そのうちの一つに「松の大廊下」がありました。襖戸に松と千鳥が描かれた長い畳敷きの廊下で、赤穂浪士討ち入りにつながったことで知られる、浅野内匠頭長矩（あさのたくみのかみながのり）の吉良上野介義央（きらこうずけのすけよしひさ）への刃傷事件（元禄 14 年（1701））があった場所です。事件を下敷きにして、「仮名手本忠臣蔵」をはじめ多くの舞台芸能、文学作品、映画、テレビドラマが生まれています。

23 果樹古品種園

かつて食用として栽培されていた古い品種の果樹が植えられています。この果樹園は、江戸城の跡に江戸時代の果樹の品種を植え、入園者が楽しめるようにとの上皇陛下のお考えからつくられたものです。

24 本丸大芝生



江戸時代の江戸城の本丸だったところで、面積は、約 13 万平方メートルあります。将軍の政務と居住の場であった、３万３千平方メートルに及ぶ広大な御殿が建っていました。

25 本丸休憩所



お土産物を販売しています。飲料の自動販売機があります。お食事は販売しておりません。別棟で江戸城天守復元模型を公開しています。

26 展望台

江戸時代の江戸城には、台所前三重櫓という櫓がありました。この付近に、本丸御殿の台所があったことからそう呼ばれたものです。現在は二の丸や大手町方面のビル群を眺めるのによい展望台となっています。

27 同心番所（どうしんばんしょ）



「番所」とは警備詰所のことで、江戸城にあった番所のうち、百人番所、大番所、同心番所の３つが残っています。ここには主として「同心」と呼ばれる武士が詰め、登城者の監視に当たっていました。屋根瓦には、皇室の菊の御紋のあるものや徳川家の葵の紋があるものが見られます。

28 大番所（おおばんしょ）

大番所は、大手中之門の内側に設けられていた警備詰所です。ここには位の高い武士が勤務していました。この番所は、明治期に改築され、作業所として使われていましたが、昭和 43 年（1968）に江戸時代の姿に復元されました。

29 百人番所（ひゃくにんばんしょ）



江戸城本丸への道を厳重に守る大手中之門に向き合って設けられた警備詰所です。甲賀組、伊賀組、根来組、二十五騎組という４組の鉄砲百人組が昼夜交替で勤務していました。各組は、20 人の与力と、100 人の同心で構成されていました。

30 皇宮警察 済寧館（武道場）（さいねいかん）

明治天皇の命でできた武道場で、改築移転を経て、現在の建物は 1933 年に造られました。武道に励む声が聞こえます。

31 皇居三の丸尚蔵館

詳細は
https://shozokan.nich.go.jp/
をご覧ください。



32 天守台（てんしゅだい）



徳川家康の入城以来、江戸城では、慶長度天守（1607 年）、元和度天守（1623 年）、寛永度天守（1638 年）と３度、天守が建てられました。最も規模が大きかった寛永度天守は、地上からの高さが約 58m あったといわれています。
この天守台は、寛永度天守が明暦の大火（1657 年）により焼失した後、天守再建を目指して万治元年（1659）に築かれたものですが、幕府内で、天守は不要との結論が下され、この天守台には天守が建てられないままになりました。

33 書陵部庁舎

宮内庁書陵部は皇室に伝えられてきた、歴史的に貴重な文書の保管、皇室の歴史の編纂、歴代の天皇や皇族のお墓の管理や調査などを担当しています。



34 楽部庁舎、桃華楽堂（がくぶちょうしゃ とうかがくどう）

宮内庁式部職の楽部は、雅楽の保存、演奏、演舞、宮殿で演奏される洋楽を担当しています。楽部楽師が演奏する雅楽は、国の重要無形文化財に指定されています。毎年秋には、楽部による雅楽の一般公開が行われています。
桃華楽堂は、香淳皇后のご還暦を記念して建てられ、香淳皇后のお印の「桃」にちなんで命名された音楽堂で、昭和 41 年（1966）に完成しました。屋根はテッセンの花弁を象り、八つある壁面は、各面とも大きく羽ばたく鳥を中央に、それぞれ日月星、松竹梅、楽の音などをイメージした図柄が陶片で描かれています。





35 大奥跡（おおおくあと）

徳川将軍の時代、江戸城の本丸御殿の最も奥にあった大奥の跡地です。

36 梅林坂（ばいりんざか）



この地に最初に城を築いた太田道灌が、このあたりに天神社をまつり、数百株の梅を植えたことから「梅林坂」の名が付いたといわれています。現在は約 70 本の紅白の梅が植えられており、12 月末から２月まで花が楽しめます。

37 汐見坂（しおみざか）



徳川家康による江戸城築城の頃は、この場所の近くにまで日比谷入江が入り込み、この坂から海を眺めることができたことから「汐見坂」の名が付いたといわれています。この坂は、本丸と二の丸をつないでいたもので、坂上には、汐見坂門が設けられていました。

38 二の丸雑木林 新雑木林

昭和天皇の御発意により、東京近郊から失われていく武蔵野の雑木林を皇居内に造ろうと、昭和 58 年（1983）から３年かけて造成されたものです。また新雑木林は、二の丸雑木林を拡張してはどうか、との上皇陛下のお考えから、平成 14 年（2002）に整備されました。

39 諏訪の茶屋（すわ ちゃや）

諏訪の茶屋は、元々、明治 45 年（1912）に、皇居内の吹上地区に建てられたものです。その場所に、江戸時代に諏訪社があったことから、諏訪の茶屋という名前が付いています。昭和 43 年（1968）に現在の場所に移築されました。（中に入ることはできません）



40 二の丸庭園

江戸時代、二の丸には小堀遠州が造り、三代将軍徳川家光の命で改修されたと伝えられる庭園がありましたが、長い年月の間にたびたび火災で焼失し、明治以降は荒廃していました。現在の回遊式の庭園は、昭和 39 年（1964）に、九代将軍徳川家重の時代に作成された庭園を基にして造られたものです。

41 二の丸池のヒレナガニシキゴイ

上皇陛下のご発案により、インドネシアのヒレナガゴイと日本のニシキゴイを交配して生まれました。



42 北桔橋門（きたはねばしもん）

江戸時代は、本丸の裏手を守る重要な門で、この門に接続する橋は、いざという時には、跳ね上げられて、敵が渡って来られないようにする仕掛けになっていました。

43 平川門（ひらかわもん）

大手門が正門であるのに対して、この門は、御殿に勤めていた奥女中などの通用門として使用されていました。大手門と同様、厳重な防御の構造になっています。小さな脇門は、平川濠の中に伸びた、「帯曲輪（おびくるわ）」と呼ばれる細長い渡り堤につながっています。

44 大手門（おおてもん）

大手門は江戸城の正門で、諸大名がこの門から登城しました。大小２つの門に囲まれた枡形は、侵入する敵を阻止・攻撃しやすい構造になっています。昭和 42 年（1967）に復元されました。

45 主馬班厩舎（しゅめはんきゅうしゃ）

主馬班では、馬車をひく馬や乗馬用の馬を飼育・調教しています。信任状捧呈式馬車列の運行、古式馬術（母衣引及び打毬）の保存を行っています。
（※立ち入ることはできません）



江戸から残るもの　現代のもの　で表しています

（参考）皇居東御苑開園前の風景 https://www.kunaicho.go.jp/event/higashigyoen/pdf/zuroku.pdf